

2017年(平成29)4月26日(水) 第39回 例会 (通算2745回)



人類に
奉仕する
ロータリー

RI 会長: ジョン・F・ジャーム

Weekly Report No.2624

Rotary International District 2580

石垣ロータリークラブ

地区ガバナー: 上山 昭治氏

「出会いを大切に」



ロータリーレート \$1=¥116

石垣ロータリークラブ55年のあゆみ

1994~1995年度

会長テーマ《夢を形に想像力を高めよう》

副会長 豊川 敏彦 幹事 大原 正啓
副幹事 池間 義則



三十四代会長 (山川 朝源)
大濱 正良

- 第3回青少年交換ホームステイ送り出し(7/23-30)
- 阪神大震災チャリティーコンサート「ピアノとチェロの調べ」開催
- 砂川 RC 創立 25 周年記念式典参加

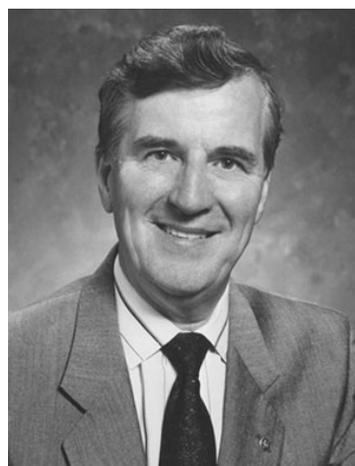
《社会情勢》 1995 年

- ・「川平湾」新おきなわ観光名所 100 選 3 位に選定
- ・M8.1 の北海道東方沖地震が発生
- ・韓国のソウルでデパートが崩壊、犠牲者 800 人以上

【RIテーマ】



友達になろう



1994~95 年度 RI 会長
ビル・ハントレー

(米国・アルフォード&メイブルズRC)

会 長	: 前木 繁孝	副 会 長	: 大浜 一郎	幹 事	: 前原 博一
副 幹 事	: 宮城 早人	SAA・出席	: 遠藤 正夫	情報・会報	: 宮良 薫

例会日 水曜日 12:30~13:30
 例会場 アートホテル石垣島(0980)83-3311
 事務局 〒907-0013 石垣市浜崎町 1-1-4

TEL/FAX(0980)83-2917
 URL <http://ishigaki-rotary.jimdo.com>
 E-mail ishirotaary@ninus.ocn.ne.jp

— . . . — 第2744回 2017年4月19日(水) 例会報告 — . . . —

- 司会進行：我那覇 宗広
- ロータリーソング：奉仕の理想・四つのテスト
- ソングリーダー：櫻井 浩一
- 会員卓話：上原 秀政氏(上原内科医院・院長)
- メイクアップ：小林昌道・白道直行・羽地宏幸
佐久本 達・南波 正幸・上原 晃子

■出席報告

会員総数 39名 出席義務会員 38名
出席数 23名 欠席数 15名
出席率 60.53%(4月通算出席率 64.91%)

 **本日のにこにこ**

	小計	累計
BOX	¥4,000	¥243,000
コイン	¥2,007	¥120,437
合計		¥363,437

- 会員卓話の上原先生、ありがとうございました。
(前木 繁孝)
- アトランタモアイ参加ありがとうございました。
(大浜 勇人)
- 上原先生の卓話楽しみにしています。感謝！
(宮良 榮子)
- 上原先生、卓話ありがとうございました。仕事で中座して申し訳ありませんでした。(前原 博一)

会長挨拶：前木 繁孝



先週、水曜日の例会終了後に6人のメンバーで東京へ行き、翌日の木曜日春日部西 RC へメイクアップしてきました。たまたま会場が貸し事務所の一部でした。食事がお弁当だったのが印象的でした。春日部西 RC にこにこボックスが年間100万を超えるそうです。にこにこ袋に色んな想いを書いて、それを読み上げるだけでも時間がかかるくらいの枚数が、毎回の例会で出されているようです。それも1つの特徴だなと思いました。私たちも何かの記念日にはぜひにこにこ袋に書いて出していかなければと感じました。例会終了後、浅草に移動して春日部西 RC の会員の皆様に歓待を受けました。前川といううなぎやなんです、隅田川のほとりにあって、あたかも屋形船に乗っているイメージでした。振袖さんと言うきれいなお嬢さんが2人お酌をしてくれたり、明るいうちから楽しく過ごしてまいりました。

翌日は沖縄に移動しまして、浦添 RC50 周年記念式典・祝賀会に参加してまいりました。東京からもガバナー経験者が数名参加されていました。我々が親しくしている嶋村さんとか数名来ていて、また楽しい浦添の夜を過ごしてまいりました。来月は那覇西 RC からまたご招待を受けております。それに参加できる方は声をかけて頂ければと思います。

先週は橋本先生によるアメリカ心臓協会のお話しでした。ありがとうございました。今日は上原秀政先生による卓話になりますが、病気についてというタイトルですが病気から逸脱しているんな話になるかもしれませんが、それもまた楽しみにしております。

会員卓話：上原 秀政氏

上原内科医院 院長



先週金曜日八重山毎日新聞に正岡子規の事が書かれていました。正岡子規の俳句や短歌などが書かれていた中で、最後に「病気を楽しむくらいでなければ、生きていても何の面白みもない」という言葉が、正岡子規さんの病状六尺という本に書いてあると、早速スマホで病状六尺を読んでみました。六尺というのは畳1枚分の大きさで、正岡子規さんは35歳で亡くなりましたが、ほとんど病気の中で過ごした人でした。日清戦争の頃に従軍記者として大連に渡り、上陸2日後に講和条約が調印されたため、結局何もしないまま帰って来たそうで、その大連からの船の中で咯血するんです。結核なんです、それから病気との闘いが始まって、最後は脊椎カリエスといって、脊椎まで結核菌が逡巡して、動けない状態になります。7年間

の想像を絶する闘病生活の中で、素晴らしい作品を残しています。子規という名前はペンネームで、ホトトギスの異称で、ホトトギスは血を吐くほど鳴き続ける鳥ということで、結核である自分と重ねて合わせています。本当に苦しみの中でさきほどの「病気を楽しむくらいでなければ、生きていても何の面白みもない」という言葉を残しています。

もう1つは私も医師会の仕事をしておりますが、医師会活動をしている方で名前を知らない人はいない、武見太郎という方がいます。この方は私が医者になって2年後に亡くなりましたが、医師会の活動に力を入れ、日本医師会会長や世界医師会会長を歴任したり、防衛医科大学を創設したり、東海大学に医学部を設置したりとか、政治の世界にもかなり発言力を持って、ケンカ太郎と言われるようなかなり強引な人でした。この頃の医師会はかなり政治力もあるような組織でした。その武見太郎さんが79歳で胆管癌でなくなりましたが、何回も開腹手術をしました。最期は痩せ衰えて、闘病生活かなりきつかったのではないかと思われませんが、その武見太郎さんが言った言葉が「病気とは善知識である」と悟ったと。武見太郎さんは日蓮宗の信者でした。善知識というのは、仏教用語では友達、近くの人、善き友達という意味になります。これだけ医学で貢献された方が最後は善知識だという結論に至った。それはやはり正岡子規さんと相通ずる所があるんじゃないか思います。

そこで考えるのは、医学を勉強すると言うのは科学の最先端です。私も科学をマスターしたいという気持ちで、医学部を目指してドクターになりました。医学というのは科学で証明する世界なので、極論を言えば唯物主義です。目に見えるもの、検査データに出るものしか信じない、あてにしない。目に見えないもの、証明されないものはないものとして扱う。私が初めて主治医として臨終に立ち会った方の事を、今でも覚えています。56歳の男性でしたが、前立腺の癌で亡くなりました。あちこちに転移して最後病床の上で言葉は出るんですけど、呼吸も酸素マスクをして息を荒くしている状況で、一番末っ子の娘だと思いますが、「お父さん口を開けて、お父さんの好きなアイスクリ

ームですよ」と口に持って行くんです。食べておいしいはずもないのに「美味しい、美味しい、ありがとう」と言うんです。そして3時間後に亡くなりました。それだけ娘に対する愛情を感じました。

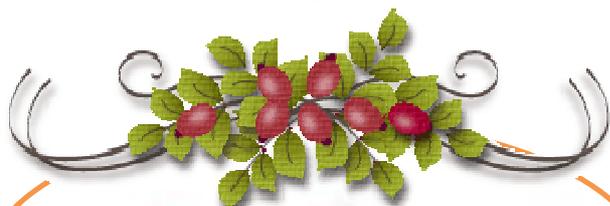
また産婦人科のドクターが肝硬変を患って、その後、肝臓がんを発症しました。当時の先端医療は肝臓の主要血管の中に細いドレナージを入れて、体外に出してそれから抗がん剤を注入するというのが、私の大学病院での治療法でした。その患者さんの担当になりまして、1日抗がん剤をドレナージから2回注入するんです。腹壁から出ているドレナージをぐるぐる巻いて、けっこう長さあるんですが、その都度注入口を切って無細菌の状況にして抗がん剤を注入するんです。その先生が悲しそうにそれを見て、ドレナージのチューブが少しずつ切れて短くなっていく、自分はこれがなくなるまで持つかなど、本当に悲しそうな顔をして、その顔が今でも思い浮かびます。

医学は生きている間をしっかりと生かすというのが、医者たるものの使命ですが、現実問題として人が亡くなっていきます。亡くなったら医者を知った事ではないと、亡くなった途端に医者の管轄ではありませんよという所で、自分自身では納得ができないです。そういう所から考えて、人間というのは肉体だけの存在ではなくて、魂というのがあるんじゃないかと、現代医学では喜怒哀楽さえも物質的な化学反応だという言い方をするドクターもいます。そんなふう考えた所で納得できない部分があります。そこにはやっぱり心だとか魂とかの存在がなくては説明できないという事で、私が唯物論から離脱した所です。化学は化学でいいのですが、それが果たしてあらゆる事象を説明できているかという、そうではありません。科学で判明しているはこの世の事象のわずかな部分でしかない。ほとんどは知らない世界、目に見えない世界もあるし、人間に到達し得てないような所が大いにあると思っております。

最近ビューティフルマインドという映画を見ました。ノーベル経済学賞をもらった方の実話に基づいての映画なんですけど、この方は統合失調症で、いろんな幻覚とか幻聴に苛まれながらも良き奥さ

んを得て、研究に励んで、その中でも自分の子どもを病気のせいでひどい扱いをしたりして、結局ノーベル賞をもらって、最後はみんなに祝福されておめでとうと言って、科学者に敬意を表するためにテーブルの上にペンを1本ずつ置いて行くんです。最期はペンがテーブルにいっぱいになる。本当に考えさせられる映画でした。もう1人は草間彌生という芸術家ですが、水玉模様が特徴の作風で、世界でもかなり評価されています。この方もやはり統合失調症で、若い頃から幻覚、幻聴に苛まれて、水玉というのはこれをぼんぼんと置くことによって、悪霊が入り込む隙間をなくしていくという考えらしいんです。それでそんなにもいっぱい細かく水玉を創っているんだと、本人ではなく誰かの解釈でそう言われています。こういう精神的な病気も、今の科学のレベルでは分からないようなレベルの問題ではないだろうか、本当に病気と呼べるのか、もっと精神世界まで深く入り込まないと解明できないのではないかという気がしています。

なぜそういう話をしたかという、私の次男坊が精神的に体調をくずして、その辺を親なりに考えて、例えばダウン症の子どもは心臓病が出たり、聴力が弱かったり、知的に低下していたり、「かわいそうになんでこんなふうになされたのか」と思われたりしますが、親御さんは我が子に対して愛情を持って育てている、それが親としての本当の使命なんだろうと考えさせられるところです。病に関して宗教的などころ、哲学的などころとかまで深く掘り下げて、自分なりの解釈をしっかり持ったうえで、いざ病気になっても対応していかなければならないんじゃないかと、これはドクターというよりも自分自身の問題として、常に今のところ考えている状況です。



今週の **HAPPY BIRTHDAY**

大城 文博氏 1965年4月25日

～例会風景～



＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝
 ★ハイライトよねやま 2017/4/11 発行
 ＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

《今月のピックアップ記事》

2017 学年度の奨学生は 795 人となりました。新規採用者が 615 人、継続者が 180 人です(4月10日現在)。
 国・地域別にみると、中国が 39.5%、次いでベトナム 13.8%、韓国 11.9%、台湾 5.0%の順となっています。ベトナムは2009 学年度以降、台湾を抜いて 3 番目に奨学生数の多い国として著しく増加していましたが、今年は、韓国を抜いて 2 番目に多い割合を占めています。